



2013年10月16日

株式会社テイツー (JASDAQ 7610)

2014年2月期 第2四半期 決算説明資料



2014年2月期 第2四半期 決算説明

2014年2月期 第2四半期 業績の概要

●連結損益計算書

(単位:百万円)	2013年2月期 2Q累計期間	2014年 2月期 2Q累計期間
売上高	-	14,288
売上総利益	-	4,175
営業利益	-	144
経常利益	-	144
四半期純利益	-	41
1株当たり四半期純利益	-	81銭/株

※2014年2月期第4四半期より連結財務諸表を作成しているため、2013年2月期及び増減の数値記載はいたしておりません。

※2013年4月15日開催の取締役会決議に基づき、2013年9月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

●比較損益計算書(個別)

(単位:百万円)	2013年 2月期 2Q累計期間	2014年 2月期 2Q累計期間	増 減
売上高	16,051	14,286	△1,765
売上総利益	4,711	4,176	△535
営業利益	442	196	△245
経常利益	454	162	△292
四半期純利益	228	73	△155

トピックス

『連結対象範囲の変更』

TWO-BASE(株)に加えて、当期よりカードフレックスジャパン(株)が新たに連結対象範囲に。

連結子会社

2013/3-2013/8累計 損益計算書

(単位: 百万円)	TWO BASE	カードフレックス ジャパン
売上高	2	0
営業利益	△15	△36
経常利益	△15	△36
四半期純利益	△28	△37

TWO-BASEにつきましては、ペットサプリメント事業を行っていましたが、2013年9月23日付開示のとおり、10月1日で同事業を譲渡いたしました。

2014年2月期 第2四半期累計期間の状況①

○ 業績の状況

● リアル店舗売上高

新品ゲームの有力タイトルの発売が前期に比較して少なかったことから、新品ゲーム及び中古ゲームが低調に推移。加えて古本等既存の中古商材も低迷したため、売上は前期を下回った。

前期5店舗出店したTSUTAYA店舗のレンタル事業やトレーディングカード拡販等、前期より実施している重点施策の商材においては、順調に推移。

● EC部門売上高

他サイトとのアライアンス強化や取扱商材の拡大等により、引き続き順調な売上。

(ご参考)

リアル店舗 売上高(前年比)	88.0%
EC 売上高(前年比)	110.3%

● 営業利益

経費面で、店舗の業務効率化を中心としたコスト構造の見直しを行ったことにより、固定費を中心とした販売管理費を削減。

※販管費:2013/2期2Q累計 個別 4,269百万円



2014/2期2Q累計 個別 3,980百万円(前年同期比△289百万円)
連結 4,030百万円

個別:販管費は大きく減少したものの、減収による売上総利益の減少分を補えず、営業利益は減少。

連結:個別の要因に加えて、新たに連結範囲とした1社の営業損失が影響。

注)個別の経常利益が悪化しているのは、子会社TWO-BASE(株)への貸倒引当金30百万円を、営業外費用として計上しているためです。

2014年2月期 第2四半期累計期間の状況②

○ 計画数値との差異について

連結業績予想並びに実績

(単位:百万円)	期初予想	7月16日付 修正予想	実績	7月修正予想比 増減
売上高	15,500	14,600	14,288	△311
営業利益	310	152	144	△7
経常利益	310	150	144	△5
四半期純利益	140	43	41	△1

● 期初予想 → 7月修正予想

(売上高:△900百万円 営業利益:△158百万円 経常利益:△160百万円 四半期純利益:△97百万円)

前期より重点施策として取り組むトレーディングカード拡販やレンタル事業などは順調に推移したものの、1Qでは有力タイトルの新規発売が少なく、新品・中古ゲームが低調に推移。加えて古本等も低迷。2Qも同様の状況が見込まれ、売上高予想を下方修正。

利益については、上記の要因に加え、連結範囲となったカードフレックスジャパン(株)の先行投資が影響。

● 7月修正予想 → 実績

売上高については、7月の修正時点よりもさらに減少。

期初から進めてきた店舗の業務効率化・コスト構造の見直しが奏功し、販管費を削減したことにより、経常利益は微減にとどまる。

2014年2月期 第2四半期 連結貸借対照表の状況

(単位:百万円)	2013/2末		2013/8末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	7,821	64.4	7,493	64.4	△328
現預金	2,655	21.9	2,710	23.3	54
売掛金	308	2.5	290	2.5	△17
商品	4,264	35.1	3,881	33.4	△382
貯蔵品	26	0.2	23	0.2	△3
その他	566	4.7	588	5.1	21
固定資産	4,328	35.6	4,140	35.6	△187
有形固定資産	1,540	12.7	1,451	12.5	△88
建物及び構築物(純額)	819	6.7	802	6.9	△16
その他(純額)	720	5.9	648	5.6	△71
無形固定資産	307	2.5	279	2.4	△27
投資その他の資産	2,480	20.4	2,408	20.7	△71
差入保証金	1,220	10.0	1,224	10.5	3
投資有価証券	295	2.4	252	2.2	△43
その他	963	7.9	931	8.0	△31
総資産	12,149	100.0	11,633	100.0	△515

(単位:百万円)	2013/2末		2013/8末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
負債合計	6,711	55.2	6,303	54.2	△408
流動負債	3,304	27.2	2,746	23.6	△558
買掛金	1,034	8.5	769	6.6	△264
短期借入金	450	3.7	0	0.0	△450
1年内長期借入金	623	5.1	951	8.2	328
未払法人税等	255	2.1	99	0.9	△156
その他	941	7.7	926	8.0	△15
固定負債	3,406	28.0	3,557	30.6	150
長期借入金	2,377	19.6	2,613	22.5	236
役員退職慰労引当金	144	1.2	0	0.0	△144
その他	884	7.3	943	8.1	58
純資産	5,438	44.8	5,330	45.8	△107
株主資本	5,435	44.7	5,327	45.8	△108
その他包括利益累計額	△0	0.0	0	0.0	1
新株予約権	3	0.0	2	0.0	△0
負債純資産合計	12,149	100.0	11,633	100.0	△515

主な資産の増減

- ・在庫の圧縮による商品の減少
- ・カードフレックスジャパン(株)の連結入りによる投資有価証券の減少

主な負債増減

- ・短期借入金の減少
- ・買掛金の減少
- ・長期借入金の増加
- ・役退慰労金制度廃止に伴う引当金減少

主な純資産の増減

- ・四半期純利益41百万円の計上
- ・配当金支払い56百万円による利益剰余金の減少
- ・自己株式87百万円取得による減少

2014年2月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2014/2期 2Q累計 (2013/3~2013/8)
営業キャッシュ・フロー	228
投資キャッシュ・フロー	△91
財務キャッシュ・フロー	△100
現金及び現金同等物の増減額	35
現金及び現金同等物	2,626

営業CFの要約

(単位:百万円)	2014/2期 2Q累計 (2013/3~2013/8)
税引前当期純利益	126
減価償却費	257
棚卸資産減少	385
仕入債務減少	△263
法人税等の支払額	△238
その他増減額合計	△39
営業キャッシュ・フロー	228

○営業キャッシュ・フロー

●仕入れ債務は減少したものの、棚卸資産の減少額が大きく寄与し、プラス。

○投資キャッシュ・フロー

●店舗改装及び新規出店等有形固定資産取得により、マイナス。

○財務キャッシュ・フロー

●長期借入金は増加したものの、短期借入金の返済、自己株式の取得、リース債務の返済、配当金の支払等により、マイナス。

2014年2月期 業績予想

7月16日付開示からの業績予想の修正はございません。

■連結業績予想

(単位:百万円)	2013年2月期 実績	2014年2月期 予想
売上高	34,202	32,600
営業利益	604	610
経常利益	619	600
当期純利益	244	210
1株当たり当期純利益	※ 4.74円	4.12円

■個別業績予想

(単位:百万円)	2013年2月期 実績	2014年2月期 予想
売上高	34,201	32,570
経常利益	612	720
当期純利益	238	330
1株当たり当期純利益	※ 4.61円	6.48円

(※)当社は、2013年4月15日開催の取締役会において株式の分割及び単元株制度の採用について決議し、2013年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株へ分割し、単元株式数を100株といたしております。2013/2期の1株当たり利益につきましては、比較を容易にするため、分割を考慮した数値を記載しております。

- 売上高・利益については、第3四半期以降に新品ゲームのビッグタイトルの発売が見込まれ、また、前期からの重点戦略である改装投資を伴うトレーディングカード売り場拡大等や、コスト構造の見直し等の仕込みが収益に貢献する見込みであり、上期業績予想に対する未達額(売上高△311百万円、営業利益△7百万円)を取り戻すべく努力いたします。
- TWO-BASE(株)のペットサプリメント事業については、事業継続断念の為、第2四半期決算で既に撤退費用を見込計上しております。

2014年2月期 配当

■中間配当と通期の配当予想について

当社は配当に関して、配当性向25%以上を目処として業績に応じた配当を安定的に実施することを基本方針としております。

(単位:円)	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末(予想)	合計
配当金	—	80.00	—	0.80	—
前期実績 (2013年2月期)	—	110.00	—	110.00	220.00

(注)当社は、平成25年4月15日開催の取締役会において、株式の分割及び単元株制度の採用について決議し、平成25年9月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株へ分割し、単元株式数を100株といたしました。

(注)年間配当金の期末欄の記載については、株式分割後の配当予想額を記載しております。なお、株式分割を考慮しない期末配当予想修正額は80円、通期の配当予想合計額は160円となります。

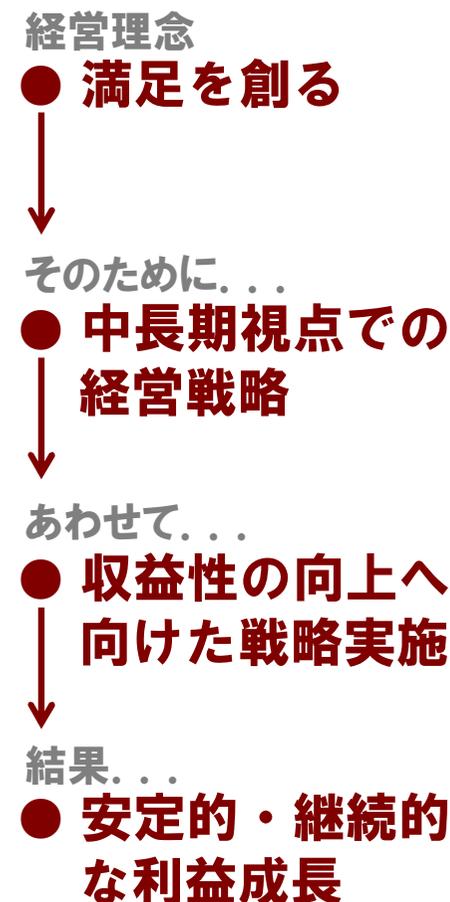
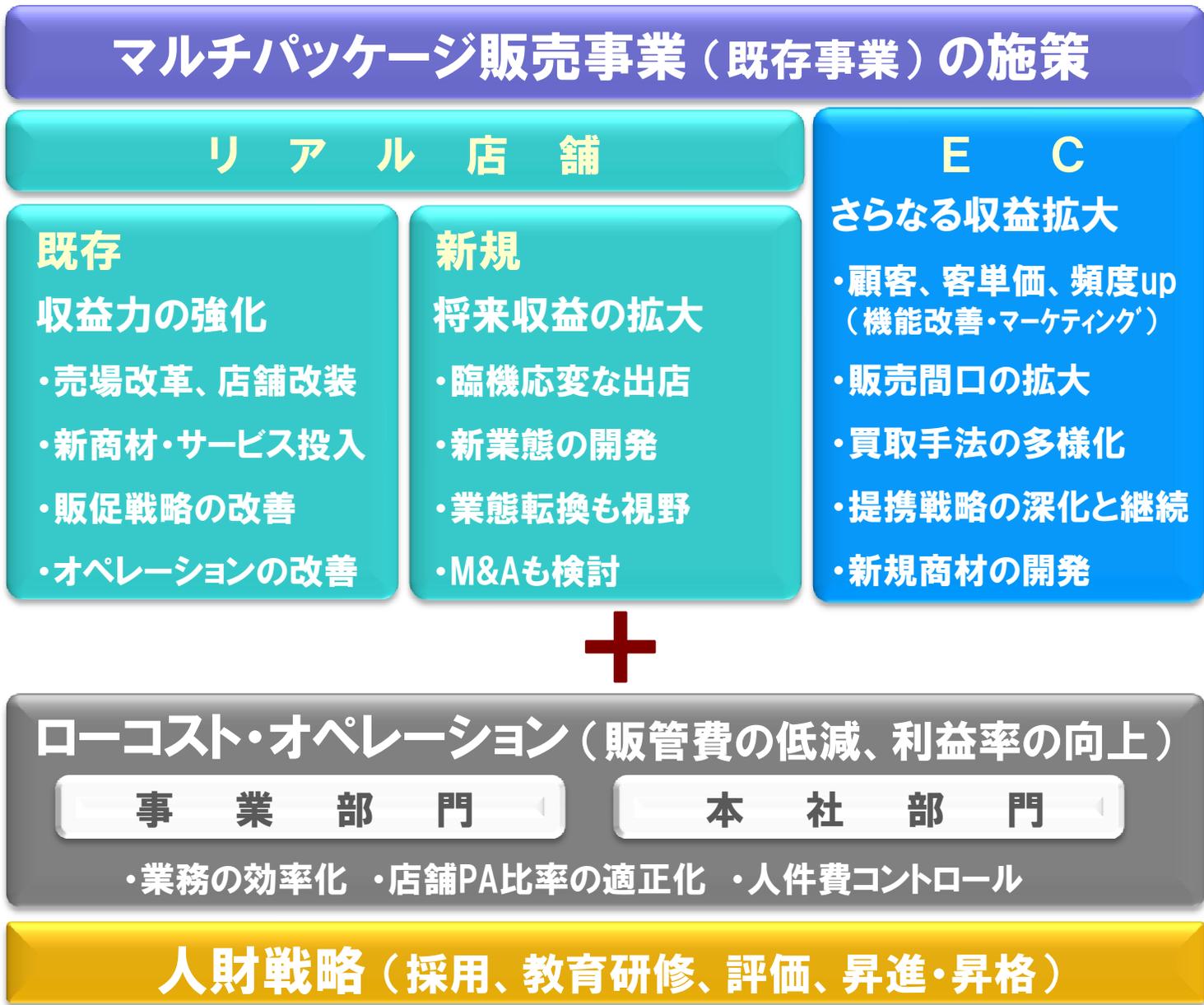
■配当性向の実績と計画

	第20期(実績)	第21期(実績)	第22期(実績)	第23期(実績)	第24期(予想)
	2009/3-2010/2	2010/3-2011/2	2011/3-2012/2	2012/3-2013/2	2013/3-2014/2
当期純利益	741百万円	387百万円	△19百万円	244百万円	210百万円
配当金	153百万円	134百万円	113百万円	113百万円	80百万円
配当性向	20.7%	34.7%	—	46.4%	38.5%

(注)22期は個別当期純利益及び個別配当性向

事業戦略の進捗状況

既存事業における事業戦略の概要



リアル店舗における既存店強化策の概要

さらなる収益拡大に向けての投資・改善と、採算性向上に向けた業務改革

売場改革・店舗改装

～ 買いたくなる、買い易い、また来たくなる店へ～

- ◎取扱い商材の売り場構成を適正化するための積極的な改装
- ◎来店者の顧客化、購買率の向上、再来店誘導へ向けた売場構築
- ◎トレカパークの拡大

新商材・サービスの投入

～ キーワードは『データに置き換わらないもの』～

- ◎地域・季節ニーズに適合した商材を店舗別に投入
- ◎プライベートブランド商材の制作を拡大
- ◎新サービスの開発と商品化

既存店の強化

- ◎既存顧客の把握・分析・セグメント化
帰属データ・嗜好データ・購買データから総合的に判断
- ◎顧客属性に適合した施策と告知
- ◎ポイント戦略の改善

販促戦略の改善

～ 顧客属性の明確化×適切な施策×告知媒体～

- ◎改善専門部署、担当の設置
- ◎マニュアルの整備と業務標準化
- ◎PA比率適正化による店舗経費の低減
- ◎既成概念に囚われない効率化への取り組み

オペレーションの改善

～ 筋肉質の店舗運営体制に向けて～

事業戦略の進捗状況（売場改革・店舗改装）

○ 収益拡大のための改装

1Qに引き続きトレカパークの設置を推進

◎2Q会計期間にはトレカパークを計15店舗開設し、合計43店舗に。

◎2Q累計期間では、約60百万円の改装投資を実施。

トレカパーク設置店舗数推移

	2013/2末	1Q導入	2Q導入	2013/8末
トレカパーク 設置店	19店舗	8店舗	15店舗	42店舗
トレカパーク 専門店	—	1店舗	—	1店舗
合計	19店舗	9店舗	15店舗	43店舗



2Q会計期間トレカパーク新規設置15店舗

2013年6月

- 古本市場 尼崎店（兵庫）
- 古本市場 西神戸店（兵庫）
- 古本市場 川西店（兵庫）
- ブック・スクウェア東大和店（東京）

2013年7月

- 古本市場 富田林店（大阪）
- 古本市場 京山店（岡山）
- 古本市場 中仙道店（岡山）

2013年8月

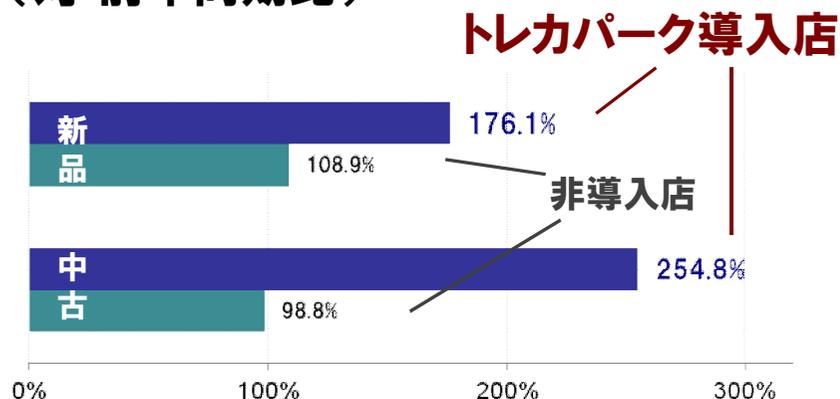
- 古本市場 竹の塚（埼玉）
- 古本市場 八潮店（埼玉）
- 古本市場 光ヶ丘店（東京）
- 古本市場 蓮田店（埼玉）
- 古本市場 灘店（兵庫）
- 古本市場 東灘店（兵庫）
- 古本市場 草加店（埼玉）
- 古本市場 春日部緑町店（埼玉）

事業戦略の進捗状況（売場改革・店舗改装）

○トレカパーク開設による効果



2Q累計期間 トレーディングカード売上高
（対 前年同期比）



（参考）

トレカパーク導入後の導入店実績
（2012/10月以降順次導入）

新品160.5% 中古240.5%

（いずれも導入店の対前年同期比）



3Q以降も、既存店の順次改装を計画

➡ 当期中に63店舗にまで拡大し、さらなる全社トレカ売上の拡大を目指す

事業戦略の進捗状況（新業態の開発）

○ 新規出店、新業態の開発

顧客ニーズに適合した新規出店を継続実施。

■トレカパーク日本橋店 3/17オープン （大阪市浪速区難波中2丁目4-9）

- ◎トレーディングカードのメッカ、大阪日本橋に出店
- ◎同業の密集している立地
- ◎トレーディングカード専門店



トレカパーク日本橋店

販売、買取とも好調に推移

■ブック・スクウェア東大和店 6/28オープン

- ◎ショッピングモール内に出店
- ◎お客様のニーズに応じた店舗パッケージ
→スクラップ&ビルドにより取扱商材の変更
（古本→新刊本）
- ◎お客様の導線を意識した店舗レイアウト・POP



ブック・スクウェア
ザ・マーケットプレイス東大和店

売場のカラーコントロール、POPを
既存店へと波及

事業戦略の進捗状況（新商品・サービスの投入）

○新商材・プライベートブランド商材の開拓

新規導入のキーワードは「データに置き換わらないもの」

→リアル店舗

- ◎金券買取開始
- ◎家電買取開始
- ◎季節商品の投入(扇風機・花火・水遊びグッズなど)
- ◎文具などの生活雑貨、スマホグッズ、ホビーの積極投入



コンパクト扇風機売り場

→EC

- ◎当社オリジナルスマートフォン用ケースの販売開始
- ◎中古携帯端末の販売開始

成功可能性の高い商材を
店舗、ECに投入



オリジナルスマートフォン用
ケース 第4弾



オリジナルスマートフォン用
ケース 第1弾

○新サービスの提供

■ ポイントシステムのリプレイス（2014年春 新システム完成を予定）

お客様に有効なポイントカードを使った販促手法を確立する

◎ ポイントシステムリニューアルプロジェクト発足

店舗でお客様アンケートを実施

→お客様のニーズに合った販促方針を確立し、ポイントシステムの構成を決定していく。

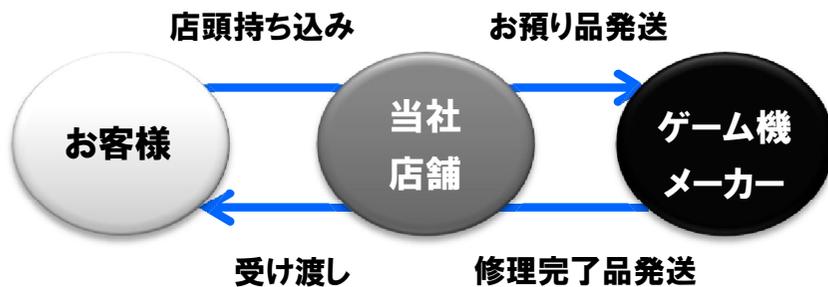


新ポイントシステムへ

準備中のプリペイドカード事業と連携させることで、当社独自のポイントシステムへ！

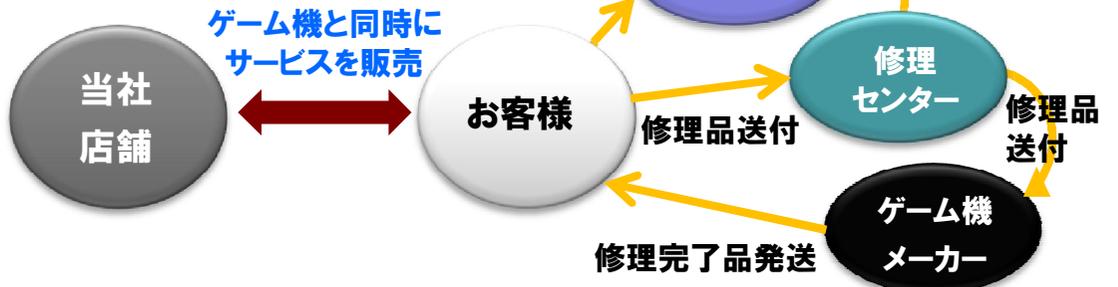
■ 新品・中古ゲーム機本体の保証サービス開始（2013年11月 サービス本格開始予定）

従来の修理取次体制



物・情報のやり取りから、連絡まで全て当社が対応
「販売店としてのサービス業務」

保証サービス導入



当社は保証サービスの販売のみ、実際の受付・修理等は専門会社
「サービスを商品として販売」

事業戦略の進捗状況（ローコスト・オペレーション）

○ オペレーションの改善

◎既成概念を廃した上で現状の業務見直しを行い、効率の改善による収益力の向上を図る。

【販売管理費】

■人件費を適正水準にコントロール

→前期末に比べ、販売管理費に占める人件費の割合が減少

2013年5月より、PA人事制度構築プロジェクトも発足

➡ PAのさらなる戦力化に努める

■店舗・本部経費を見直し、コスト削減を実施

- ・Web会議システム導入による、会議費(移動費、会場費)の削減
- ・店舗賃借料の改定、見直し
- ・組織変更による人員配置、業務分担の変更、整理
- ・改善担当・効率化担当の設置により改善施策の早期実現
- ・業務の本部一括管理化の推進
- ・社用車の削減、配置見直し
- ・消耗品の見直し、変更

筋肉質な
店舗運営
の実施

事業戦略の進捗状況

○ EC事業

◎ マーケットプレイス戦略深化

新たな販売・買取アライアンス先の拡大

・ Amazonへ専用ストアオープン

Amazonの販売サイトにフルイチオンライン専用のストアを開設

・ 大東建物管理株式会社と買取アライアンス

・ モバオク！へ出品開始

DeNA社が運営するオークションサイト「モバオク！」へ古本漫画全巻セットを出品

・ ポンパレモールへ出店

リクルート社の運営するネットショッピングモール「ポンパレモール」へ出店。
古本漫画全巻セットを中心に、古本、中古ゲーム、中古CD、中古DVD/ブルーレイをラインナップ

Amazonストア フルイチオンラインストアページ



ポンパレモール
フルイチオンラインページ



モバオク！
フルイチオンライン出品ページ

新規事業

新規事業の展開

◎新規事業の『選択と集中』を実施

不採算事業からの撤退
成功可能性の高い事業へ集中投資

○ ペットサプリメント事業

◎TWO-BASE(株)のペットサプリメント事業を 岡山のバーリントン動物薬株式会社へ譲渡。(10月1日)

TWO-BASE(株) 業績推移

	2013年2月期末	2014年2月期 第2Q累計
売上高	1,170千円	2,078千円
営業損失	△37,603千円	△15,655千円
経常損失	△37,905千円	△15,826千円
当期純損失	△38,561千円	△28,598千円

2012年4月より、消費者参加型マーケティングによって自社開発したペット用サプリメントの販売を行ってきたが、ECサイトでの売上不振やペット用商品販売店等への拡販が思うように進捗せず、業績は低調に推移。

投資額及び投資効果を精査し、決断

事業継続を断念

新規事業

○ ゲーム情報サイト

◎当社持分法適用関連会社(株)キヅキ運営のゲーム情報サイトを10月に終了

ゲームに対する興味関心を醸成するサイトを構築し、購買に影響を与えることでECビジネスを拡大させるべく、(株)ベーシック及びその子会社(株)キヅキと当社の3社で業務提携し2012年3月より同サイトを展開。

「げむたま」及び「げむココ」という2つのサイトを開設し、2013年5月には36万人が訪問するサイトまで成長したが、お客様に情報提供によって購買へと結び付けられるほどの影響を与えるには至らず、早期にECビジネスにはつながらないと判断。

(株)ベーシック及び(株)キヅキとの業務提携は継続し、
ビジネスチャンスを模索してまいります。

○ プリペイドカード事業

事業スタートに必要な財務基盤構築のため、カードフレックスジャパン(株)に増資を実施。

(2013年5月、300百万円)

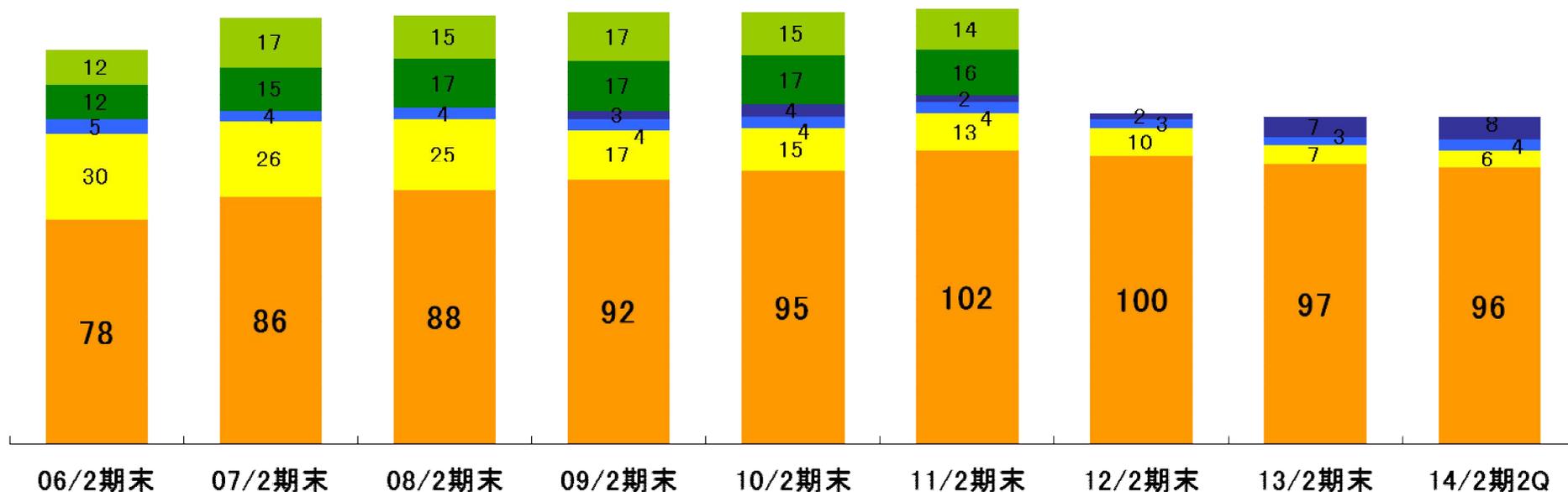
当社の新ポイントシステム等との効果的連携を念頭に、プログラムを構築中。

今期中のサービス開始に向けて、最終調整中。

參考資料

〔ご参考〕2014年2月期 第2四半期 店舗の状況

■古本市場 直営店 ■古本市場業務提携・FC店 ■ブック・スクウェア ■その他 ■アイ・カフェ直営店 ■アイ・カフェFC店



	2013/2期	2014/2期 2Q			増減数
	期末	出店	退店	期末	
古本市場直営店	97(1)	—	1	96(1)	△1
古本市場業務提携・FC店	7	—	1	6	△1
ブック・スクウェア	3(1)	1	—	4(1)	1
3Bee直営店	3(3)	—	—	3(3)	—
TSUTAYA(単独店)	2	—	—	2	—
その他	2	1	—	3	1
合計	114(5)	2	2	114(5)	0

※カッコ内はTSUTAYA併設店となります。

会社概要

社名	株式会社テイツー（英訳名 TAY TWO CO.,LTD.）
設立日	1990年4月16日
上場日	1999年9月14日：JASDAQ
本社	岡山県岡山市北区今村650番111
東京本部	東京都品川区西五反田7-1-1住友五反田ビル5F
代表者	代表取締役社長 堀 久志
事業内容	1.古本、TVゲームソフト・ハード、CD、DVD等の新品及びリサイクル品の販売・買取 及びビデオレンタル業務、コンビニエンスストア「Family Mart」の運営 2.インターネットサイト「furu1online」の運営
従業員数	正社員 362人、パート・アルバイト 1,192人 計1,554人(2013年8月末現在)
資本金	1,165百万円(2013年8月末現在)
発行済株式数	526,400株：単元株制度なし(2013年8月末現在)
株主数	5,727名(2013年8月末現在)



More Friendly

～もっと親しみやすく～

本資料は、2014年2月期第2四半期の業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2013年10月15日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

IR窓口：経営企画部 藤巻、宮、中村
TEL03-5719-4775 FAX03-5719-4583
E-mail: ir@tay2.co.jp